

プライド7コミュニケ Pride7 Communiqué

私たちプライド7 (Pride7) は、人権、民主主義、法の支配という G7 (Group of Seven) の価値観を支持する。私たちは、包摂的な差別禁止法、婚姻平等、個人の権利を尊重した生命と身体の自己決定、ジェンダーの自己決定など、LGBTQIA+の権利を求めて長年活動してきた日本の LGBTQIA+コミュニティ主導のもと、2023年3月30日に東京で開催された第1回プライド7サミットに集まった。

2023年に世界人権宣言75周年を迎えるとはいえ、G7参加国の内外を問わず、世界中の人々が、誰を愛するか、どんな見た目や自己表現をするか、もしくは自分が何者であるかを理由に、暴力や不平等、時には拷問や死に直面している。G7参加国政府は、グローバル・リーダーに相応しく、自国の法律、政策、慣行がLGBTQIA+の人々を守る国際人権基準を満たしていることを確認し、世界中の虐待やハラスメントに対処するため、確固たる行動を取るべきである。

一昨年、昨年のG7議長国である英国とドイツにおいて、性的指向、性自認・性別表現、身体の性的特徴 (SOGIESC) の課題が可視化されたことを踏まえ、私たちはG7参加国政府に対し、SOGIESCの分野における政治的・財政的支援と保護を促進・強化するよう呼びかける。

Pride7は、G7リーダーに対し、以下の取り組みを求めます：

- (1) LGBTQIA+の人々が社会のあらゆる局面で差別に直面していることから、SOGIESCの課題が各種のG7首脳コミュニケに含まれるよう保証し、Pride7がそれらの課題に取り組む公式な手段であると認めること。
- (2) 法の支配を促進し、LGBTQIA+の人々が、国内外の雇用、教育、医療、社会福祉制度における差別などの障壁除去に取り組む権利を保護すること。
- (3) 自己決定に基づく法的な性別認定も含めた、機会の平等と差別や暴力からの保護に関する新法を制定し、既存の法律を強化することで、トランスジェンダー、ノンバイナリー、その他ジェンダー規範に同調しないすべての人々が直面する障壁を緩和し、平等と公平性を掲げること。
- (4) 政治、経済、教育、雇用、医療・健康増進 (ヘルスケア)、社会福祉、文化・スポーツ、婚姻制度、あらゆる形態の多様な家族の法的承認など、社会のあらゆる領域において、LGBTQIA+の人々の完全で平等、安全かつ有意義な参加を保証する。
- (5) あらゆる政策分野においてLGBTQIA+平等の一貫した主流化を推進するために、必要な法的、財政的、教育的措置の他、実現し得るあらゆる措置を講じること。

(6) LGBTQIA+の人々に対する差別やスティグマ防止の対策を講じ、暴力、孤立、貧困のリスクにさらされる人々への支援システムを強化する。

(7) 身体の性的特徴が多様な人々（インターセックスの人々とも呼ばれる）を、その身体を「正常化」するための、医学的に不必要で同意なき医療的介入から保護する。インターセックスの人々が、個人のインフォームド・コンセントに基づき、性差別、病理化、スティグマ化をもたらす障壁なしに、医療・ヘルスケアを受けられるようにすること。インターセックスの人々は、出生時の割り当て性別、二元的な性別規範や異性規範、その他のジェンダーにまつわる固定観念に関わりなく、自分のジェンダー・アイデンティティと健康ニーズを自己決定できるようにすべきである。

(8) 異性愛男女のみを想定したジェンダー規範に起因する構造的な差別や暴力に光を当て、あらゆる多様性を持つ女性や、トランスジェンダー、ノンバイナリー、ジェンダーに同調しない人々を含む、世界中の多様なジェンダーやセクシャリティを持つ人々に対する攻撃の高まりに対抗すること。

(9) G7 開催国政府に対し、差別禁止法、婚姻平等、生命と身体の自己決定、性別の自己決定などの国際人権基準に沿って、各自の SOGIESC の状態にかかわらず、平等を保証する法律を制定することで、各国がその義務を果たし、リーダーシップを発揮するよう求める。

(10) 42 の加盟国による LGBTI の人々の権利擁護のための政府間機関である「Equal Rights Coalition (ERC, 平等な権利のための連合)」を強化し、積極的な一員としてその目標達成のためにさらに努力する。

(11) Pride7 を、W7、C7、Y7 といった既存の七つの G7 公式エンゲージメント・グループと並ぶ公式の市民社会のエンゲージメント・グループとして承認し、イタリアが議長国となる来年の G7 開催前に、Pride7 と再度事前協議することを誓うこと。

以上

*この Pride7 コミュニケを支持することは、人権、民主主義、法の支配という価値観への支持を意味するが、必ずしも G7 そのものへの支持を意味しないことに留意。

* 本コミュニケで使用する用語は、国際社会での議論や、過去の G7、W7 での議論や成果に基づくものである。

* 私たちは、ジェンダーおよびセクシュアルマイノリティのアイデンティティのありようは尊重されるべきであると認識している。